

# At a Glance

日立物流グループは、3PL事業と重量機工事業、フォワーディング事業からなるスマートロジスティクスで、国内外に広がるネットワークと豊富な実績のもと、お客様の多様な物流ニーズにワンストップでお応えし、グローバルサプライチェーンにおいて最も選ばれるソリューションプロバイダとなることをめざしています。

## Resources 一価値協創基盤一

会社数<sup>※1</sup>・事業拠点<sup>※2</sup>

### Locations

**103社761拠点**

<国内:28社・325拠点/海外:75社・436拠点>



グループ人員<sup>※3</sup>

### Human Resources

**45,328名**

<国内:28,950名/海外:16,378名>



物流センター面積<sup>※2</sup>

### Warehouses

**741万㎡**

<国内:509万㎡/海外:232万㎡>



車両保有台数 (リース車含む)

### Vehicles

**合計 16,792台**

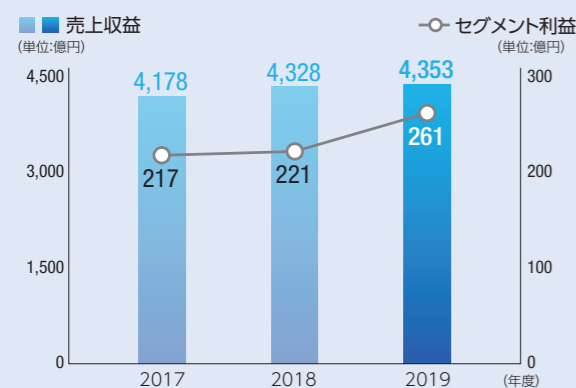
トラック<sup>※4</sup>: 3,923台      フォークリフト: 5,841台  
 トレーラ: 5,452台      その他<sup>※5</sup>: 1,576台



※1 会社数は、持分法適用関連会社を含む。      ※2 事業拠点・物流センター面積は、佐川急便グループ、エアアイティーグループ、HTB-BCDトラベルグループを除く。  
 ※3 人員数は、持分法適用関連会社人員を除く。      ※4 トラック:トラクタ、バンを含む。      ※5 その他:バス乗用車等を含む。

## 2019年度 セグメント別概況

### 国内物流 (2019年度)



※2019年度より、IFRS第16号「リース」を適用しています。

**売上収益**      ↑前年度比 **+1%**

国内物流の売上収益は、自動車関連顧客の取り扱いが減少したものの、新規立ち上げ案件の寄与等により、前期に比べ1%増加し、4,353億11百万円となりました。

**セグメント利益**      ↑前年度比 **+18%**

セグメント利益は、増収影響のほか、生産性改善効果とIFRS第16号「リース」の適用等により、前期に比べ18%増加し、260億63百万円となりました。

3PL(サードパーティー・ロジスティクス)<sup>※1</sup>の国内マーケットリーダー<sup>※2</sup>として、国内外に広がるネットワークや先駆者ならではの豊富な実績とノウハウを駆使し、

安全・品質・生産性に優れた総合物流サービスを社会に提供しています。

※1 調達、生産から、販売や流通、アフターサービスまでお客様のサプライチェーンのさまざまなステージにおける物流業務を包括的に受託するサービス

※2 出典:月刊ロジスティクス・ビジネス 2019年9月号[3PL白書 2019]

## Services 一事業&ソリューション一

### 3PL事業

セグメント:国内物流・国際物流

### Value

サプライチェーンにおける最適な物流サービスを提供。また、自動車部品物流では、自動車業界の物流周辺ニーズにも対応



### 重量機工事業

セグメント:国内物流・国際物流

### Value

重量品や精密機器の輸送・搬入・据付等のサービスを提供



### フォワーディング事業

セグメント:国際物流

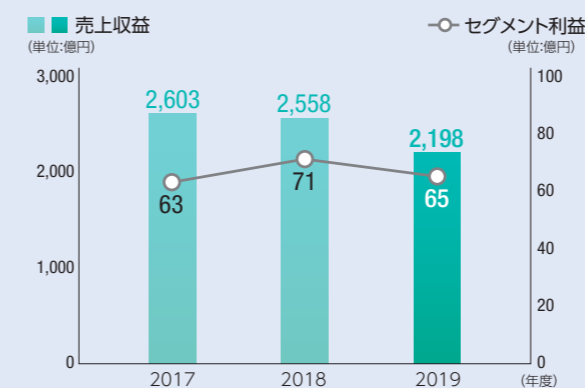
### Value

航空機、船舶、鉄道等、多様な輸送手段の中から、最適な輸送プランを提案



その他物流周辺事業 ・ 旅行代理店事業 ・ 情報システム開発事業 ・ 自動車販売/整備事業

### 国際物流 (2019年度)



※2019年度より、IFRS第16号「リース」を適用しています。

**売上収益**      ↓前年度比 **-14%**

国際物流の売上収益は、フォワーディング事業の取り扱い減少(日新運輸(株)の非連結化影響含む)や為替影響等により、前期に比べ14%減少し、2,197億61百万円となりました。

**セグメント利益**      ↓前年度比 **-9%**

セグメント利益は、減収影響のほか、フォワーディング事業でのリスクを織り込んだことや新型コロナウイルス感染症による影響等により、前期に比べ9%減少し、65億2百万円となりました。